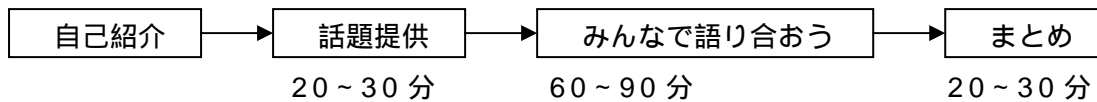


講座の進め方

基本パターン（120分）



自己紹介

地域で開催する場合と、職場で開催する場合では、違ってはきますが、基本は「自分の名前とお子さんの年齢と性別」だけにします。

お子さんが1歳であれば、パパもパパ歴1年。パパ同士の年齢の違いより、気になるのはお子さんの年齢です。

「どこに住んでいる」「どんな仕事をしている」というのは、講座が進んで顔見知りになれば、会話の中で自然発生していきます。

また、「子育てをされていて嬉しかったこと、子どもが成長したなと思ったこと」を話すと、参加者が父親の顔になって、男性ばかりというちょっとかたい雰囲気だったのが、一気に場が和みます。

参加人数が多い場合は、のグループに分かれた時に行うといいでしょう。

話題提供

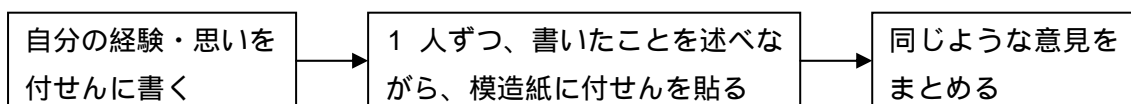
先輩パパ、テーマによっては専門家に来ていただきます。

の時間を十分確保するためにも、「話題提供」は20～30分がいいでしょう。

みんなで語り合おう

一人ひとりが「いろいろ話げた」という満足感が得られるように、6～8人程度のグループで行うといいでしょう。

ただ、いきなり「あなたからどうぞ」では、話しにくい人もいます。レジユメに書く、付せんに書いて模造紙に貼ってから話す、などの工夫をしましょう。



まとめ

グループで話したことを、全体に紹介しましょう。ずいぶん違う意見が出ていたりするものです。

地域で開催する際は、できるだけ託児をしましょう。子どもと2人で出かける機会が少ない父親にとっては、いい機会になりますし、他の父親の子どもへの接し方を見る機会にもなります。

また、仕事が休みの日にパパだけが出かけるというのは、ママにとっては「休みの日ぐらい子どもの面倒を見てよ」という不満につながる場合もあります。託児は、ママへのリフレッシュタイムのプレゼントと考えてはいかがでしょうか。

自由な時間にしてもいいし、ママ向けの講座(趣味的なもの)を同時開催してもいいですね。